

場面  
5

## だんだん着替えてみる

ガミガミ怒らず、手伝ってやる



朝、起きてきたのにボトコとして、なかなか着替えない。

とくに寒い時期は布団からなかなか出てこないし、やっと出てきたと思ったら暖房の前でガラガラしている。

こういうことは、よくありますよね。

「ガラガラしてないで、早く着替えなさい!」

「もう、ごはんの時間でしょ。幼稚園に遅れちゃうわよ!」

イライラしたお母さんがせかしても、いつこうに着替えようとしないうわらわら、言え言わうほどかたくなになっちゃってしまおう、というのも、このくらいの年齢の子にはよく

見られます。

そんなとき、此り飛ばして無理やり着替えさせるのは、じつは不必要なガマンです。大人でも、なんとなく気分がのらないとか、ガラガラしてしまおうときがありますよね? 子どもにだって、「やりたくない」気分のあるのです。

それを、頭からガミガミ言っちゃってしまえば、ますますイヤな気持ちをつのらせるだけですよ。

グズグズしている子どもを前にしたとき、お母さんは、子どもの「イヤだ」という気持ちをくんであげてください。

「着替えたくないんだ? じゃあ、今日はお母さんがボタンひとつ、はずしてあげようかなー!」

と、ちよっとだけ手伝ってあげたり、

「ばんざーい! それーっ!」

と、脱がせてあげればいいのです。

「もう一人で着替えられるのに、手伝わなきゃいけないの?」と思うかもしれませんが